

【教育長賞】

今の自分にできること

西部中学校 三年 中原 有紀

「おかえりなさい、最近暑かねえ。」

「今日は部活やったね？」

私の近所には、このように気軽に声をかけてくださる優しい方が沢山います。その多くが高齢者と呼ばれる方々です。小さい頃から私や、私の兄弟のことをかわいがってくれたり、一緒に遊んでくれたりしました。私はそんな近所の方々が大好きです。ですが世の中には、そんな高齢者の方々へひどいことをする人も少なくありません。

私は最近、「エイジズム」という言葉を知りました。エイジズムとは、年齢による偏見や差別を意味し、高齢者に対して高齢であるという理由だけで差別をすることです。医

療の発展による平均寿命の伸びや少子化を背景に、高齢化が急速に進行している日本では、このエイジズムが起きていく場所や、高齢者が安心して生活できない場所が多くありました。例えば、高齢者が車の事故を起こした場合です。最近、高齢者がアクセルとブレーキを踏み間違えて事故を起こしたというニュースをよく見ます。そんなときに、「もう八十歳こえてるから…」といった声を耳にすることもあります。これがエイジズムなのではないでしょうか。これを解決するには、高齢者が自分の意識がどの程度落ちてきているのか把握することがとても大切だと思います。自分に合った生活の仕方を見つけ、もしくは家族が見つけて、安心安全に生活できるようになればいいと思います。

私が一番記憶に残っているのは、岐阜県の介護施設で高齢者五人が相次いで死傷されたという事件です。この事件

で逮捕されたのは、介護施設で働いていた職員でした。もちろん、介護施設で働くのはとても大変だと思うし職員の方はとてもすごい尊敬できます。でも、この事件に関わった職員の方を私は許すことができませんでした。被害者の一人は司法解剖の結果、複数の肋骨が折れて右肺に刺さっていたそうです。逮捕された職員がもしやっていないとしても、被害に遭った高齢者の方は絶対に辛かったと思います。今まで平気でできていたことができなくなったり、忘れたくないことを忘れてしまったり。向き合うことは難しいことだと思うけど、私の祖父母や父、母が同じような被害に遭うかもしれないと考えたら、私はその職員を許すことができませんでした。だからこそ、私も高齢者の祖父母としっかり向き合っていることと思っています。

私の祖母は、いつも私の笑顔をとても褒めてくれます。

「あきちゃんは笑顔のよかあ」と。

少し照れくさいけれど、そんな祖母のおかげで私は笑顔をとても大切にできています。だから、私もそんな優しい祖母の笑顔を守っていきたいと思っています。それが、向き合う方法のひとつだと思っからです。

そんな祖母も、今年に入ってから、祖父が亡くなり、一人暮らしになりました。祖母にとって祖父は毎日一緒にいて、当たり前存在になっていたからこそ、祖父が亡くなったすぐは前のような元気いっぱい祖母の姿はありませんでした。そんな祖母の元気を取り戻してくれたのは、仕事だったのではないかと思います。祖母は美容院を営んでおり、髪を切りながら、沢山のお客さんと楽しそうに話をしていました。元気を取り戻してまだまだ元気な祖母も、

この先急に寂しくなるときが絶対にくると思います。です

が、私達があまり会いに行けないときも、地域の方々がいるという安心感があります。こうした地域との関わりも大切だなと改めて感じました。

高齢者の人権問題として、一人暮らしもひとつの問題になっていと思います。一人暮らしが楽しいと思う人もいれば、寂しいと思う人もいます。私は、「家族に迷惑をかけたくない」と思っている人が多いのではないかと思います。高齢者の方の本音はどうか、想像することしかできないけれど、その本音を聞いてあげられる場所をつくるのもいいなと思います。

以前、ニュースを見て、いい取り組みだなと思ったのは、田舎の個人商店の電気屋さんか一人暮らしをしている高齢者の家の電気を定期的に変えてあげたり、庭の草むしりをしてあげたりしていたことです。してもらった高齢者はそ

の電気屋さんの商品を買っていたそうです。このような取り組みが都会にも広がっていけばいいなと思いました。

この先避けては通れないこの高齢者問題に対して今の自分ができることは、「自分には関係ない」と絶対に思わないこと。そして、高齢者の方への思いやりや感謝を忘れずに接していくことだと思います。

私達や私の両親が高齢者になっている未来では、このような問題が少しでも減っているように。